

運動不足がけがにつながります

家庭内での転倒に注意

転倒や骨折をする人が増加

最近増加している高齢者の転倒や骨折。家の中でけがたり、つまずいたりすることが、大きなけがにつながっています。

実際に市内では、転倒や骨折を含めた外傷による救急患者が非常に多くなっています。

転倒の主な原因の一つとして言われているのが、運動不足による筋力の低下です。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、外出を控えたことで運動する機会

が減っています。

感染予防と適度な運動を

運動不足や筋力の低下は新たなけがや病気につながります。暖かい時間帯に自宅周辺でウォーキングしたり、家の中でできる体操や運動をしたりするなど、健康の維持に努めましょう。

また、外出する時には、マスクを着用して人混みを避ける、会食をしない、帰宅後は手洗いをすぐに行うなどの感染予防対策を行うことも重要です。

また、患者ごとに防護服を変えたり、隔離スペースを準備したりするなどの業務が増加し、医療現場はこれまでにない逼迫しています。医療従事者は、一人でも多くの命を救うために日々取り組んでいます。医療崩壊を起こさないために、私たち一人一人ができることをして、うつらない、うつさないよう心掛けなければなりません。毎日の手洗い・うがいやマスクの着用などの予防を、今一度徹底してください。皆さんのご協力をお願いします。

全国各地で、院内感染によるクラスターが発生しています。院内感染を引き起こさないために、発熱している患者とそうでない患者で診察場所や時間などを変える必要があります。

医療崩壊を防ぐために

一方で、微熱や軽度のけがで救急車を呼ぶ人も少なくありません。緊急対応が必要な患者の命を救うために、救急車の適正利用に協力してください。

病院を支える専門職



協立病院
看護部部長 小林真理さん



協立病院 看護部救急主任
救急看護認定看護師 / 特定看護師
迎山愛さん



市立川西病院
看護部部長 南幸栄さん



市立川西病院
看護部部長 福田里子さん

家族と患者の懸け橋に

新型コロナウイルスが感染拡大する中で、救急を担う私たち看護師は、患者さんと家族に寄り添い、より良い看護を提供できるよう模索しています。

現在、どの病院、施設も面会ができない状況で、当院も全ての人の面会をお断りしている状況です。そのような中、少しでも患者さんと家族の面会ができるよう救急処置の合間にお話しできる時間を設け、入院患者さんにはオンライン面会を取り入れました。

人との距離を空けるように言われている今、心の距離は近づけられるよう患者さんと家族の懸け橋になりたいと思っています。スタッフみんなで知恵を出し合い、この状況乗り越えていきます。

救急医療の現状を知ってほしい

新型コロナウイルス感染症の拡大や、市内クラスターの発生に伴い、救急搬送が一気に増えました。市内だけでなく遠方からの救急依頼も増え、救急医療全体で“医療崩壊しつつある”とひしひしと感じています。

救急搬送の中には、軽度のけがや微熱、病院までの移動手段として利用される人も多くなっています。本来の目的以外の使用が増えると、急を要する重症患者への対応ができません。今は救急隊や救急スタッフとの連携でなんとか現場を維持しているのが現状です。

病床の確保や感染対策など課題は多くありますが、当院の救急チームは一人でも多くの人を救えるよう、今後も目の前の患者さんに向き合っていきます。

普段通りの医療を維持

コロナ禍において“院内感染を起こさず、診療機能を維持すること”が、今私たちがやらなければならないことだと思っています。

感染症対策には多くの防護具が必要です。また、防護服の着脱には時間がかかり、スタッフの負担や疲労感は計り知れません。しかし、スタッフ一人一人が感染しない・感染させないをめざし、感染防止マニュアルの順守を徹底することで普段通りの医療が継続できると思います。

また院内だけでなく市内の他の病院と連携することは、診療機能を維持することにつながります。今後さらに市内の病院と連携を強化し、一丸となって安全・安心な医療を提供していきたいと思っています。

必要な治療を安心して受けられる

私は、この症状の人にはこういう対応を、という振り分けの役割を担っています。常に携帯電話を2台持っていて、それがひっきりなしに鳴る状況なんです。

外来患者さんが心配せず来院できるように工夫をしています。例えば、熱のある人から受診希望があった場合は、熱以外の受診の人とは別の時間を案内しています。熱のある人が外来患者さんと同じ空間にいる時間をつくらないように、スタッフが車まで出向いて来院受け付けをしているんです。症状は看護師が電話で聞き取り、医師が診察する直前に院内に入る仕組みにしています。患者が安心して必要な治療を受けられるように、これからも体制を強化していきたいです。



逼迫する医療を支える 救急医療の現状

コロナ禍で地域医療を支える専門職の皆さんに
医療現場の状況を聞きました。

問い合わせ 病院改革推進課 ☎072(740)1136

新型コロナ感染対策を徹底
“医療崩壊”を
防ぐために

救急医療の現場が逼迫

感染対策を十分に行い日々業務に当たっている市内の病院・診療所。特に救命救急医療の現場では、新型コロナウイルス感染症が疑われる救急患者に、細心の注意を払って対応しています。

医療機関には、全国的に発熱患者が殺到。市内においても、感染対策を行いながら救急の受け入れを行っていません。しかしながら、感染対策に追われたり個室の病床が埋まったりしていることにより、救急患者の受け入れを断らざるを得なくなる事態が発生しています。

救急車の適正利用を

現在、医療機関が逼迫し、救急患者の市外への搬送が増加。患者一人当たりにかかる

時間が長くなり、救急車が不足しています。

一方で、微熱や軽度のけがで救急車を呼ぶ人も少なくありません。緊急対応が必要な患者の命を救うために、救急車の適正利用に協力してください。